Ｎｏ３２　平成２８年１月１日

全久院報

松本市深志 3－7－50　電話 0263－36－3211

あけましておめでとうございます

昨年中は大変お世話になりました。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は本堂等の屋根瓦の葺き替え工事のための寄付の取りまとめを行い、まだ寄付をいただいていなかった方々にご協力をいただきました。総代会にて新たに入金のあった寄付金の決算をして､法人会計の処理をする予定です｡重ねてご寄付いただいた檀信徒の皆様に感謝申し上げます。

今年は数年前からの懸案であった蔵の瓦の吹き替えを完成させて、一連の工事の完成を見たいと思います。それから昨年夏、本堂内の壁が落ちてしまい、以前の地震のダメージがまだ残っていることが分かりました。劣化している壁の調査をして、対応を考えたいと思います。以上が年初に考えている今年の動きです。

次に年初の思いを書きたいと思います。全久院の住職と云う立場上、住職としての勤め、父が始めた表千家の教室､ＳＶＡのボランティア活動と、三つの勤めを続けてきました。この三つはばらばらで何の関連もないと思い、闇雲に動いてきましたが、この年になると全てのことが一つに結ばれてゆくんだと思うようになりました。後の章で記載しましたが、道元禅師が日本の陶磁器を学ぶ上でのなくてはならない働きをされていました。特に茶道の濃茶を入れる古瀬戸の茶入れは室町時代から大変珍重されたものですが、禅師が唐に同行させた藤四郎が唐の高い焼き物技術を学んで作り出したものでした。少しずつ学ぶことを深めてゆくと、その先でまったく別のことと思っていたこと同士が繋がってゆきます。何が、どこで、どう繋がってゆくのかそこまで学んでゆくことが本当の学びではないかと思うようになりました。

今、世界は対立の中で戦争にも発展する「もがき」の中にいます。人も孤立して、擦り切れてしまいます。一歩学びを深めることで豊かな繋がりを生み出してゆく人と世界を作らなくてはならないと思います｡このまま対立する人と世界を次の世代に引き継がせてはならないと思います。学びを深めることを今年の目標にして今年のスタートを切りたいと思います。今年も一年よろしくお願いいたします。

全久院の集い

坐禅会　・・　「黄檗　糟（おうばく　とうそう」　・・

座禅会では「従容録」を勉強していますが、中国の修行僧が師匠と問答をする文章が数多く出てきます。その中の常連の禅僧「黄檗希運（おうばくきうん、８～９世紀頃の人)」禅師の章をご紹介します。黄檗は大変厳しい方で、その弟子臨済（臨済宗の開祖）が仏教とは？の問いに、警策（きょうさく、座禅中姿勢が崩れると、それを打って正す棒）で２０回打つ。訳が分からない臨済は再び同じ問いを発すると、再び２０回打たれる。また問うと再び打たれる、と云うような激しい修行を指導した方です。そして多くの弟子を育て、中国

禅宗の一時代を築き上げた偉大な禅師様です。

ある日黄檗は弟子に向かって「ここに居る者はみな酒の糟（かす）ばかり食う者たちだけで、本当の酒を飲んだことがない。こんな修行でいつ本当の禅が分かるのか」という問いかけをした、という禅問答です。この話を元に中国では唐時代から人を罵倒する言葉として「**酒糟の漢（とうしゅそうのかん）**」という句が使われるようになったとのことです。本当の酒を飲んだこともないのに、酒糟ばかり食べていて、あたかも本当の酒の味を知ったかのような話をする。禅では文字や言葉にばかり執着して、お経を分別や判断で理解しようとすれば本筋から逸脱してしまうと考えています。そんな修行僧を罵倒したのがこの言葉です。黄檗は生きることや生活する中での自分の禅に気付く道を伝えようとするのに、頭脳のみを使って修行だと考える僧に、強烈な警策を食らわせたのです。すると修行僧が「諸方には修行僧を集め、指導する評判の師がいるが、それはどういうことですか」と聞くと、黄檗は「禅はこの世にないとは云わない、ただ禅を教える師がいない」と答えました。本物を身につけることの難しさ、本物を伝えてくれる本物の師に巡り会えることの難しさを教えてくれます。

自分は本物を身に着けようとしているか、そのための人に巡り会おうとしているか、常に自分に問いかけ続けたいと思います。

茶道コーナー

古瀬戸と道元禅師

抹茶を飲む習慣は臨済宗では茶礼と称して、儀式や作法として修行のなかに組み込まれ、茶道の元となりましたが、私たちの宗派曹洞宗と茶道の接点は少なく、私も抹茶を飲むことは修行中まったくありませんでした。しかし唯一点「古瀬戸」と総称される茶入の源と曹洞宗が関係していることが分かりました。道元禅師は２４才の時入唐し仏道修行したのですが、その時一緒に連れて行ったのが古瀬戸の製作者、通称「藤四郎（とうしろう）」、本名加藤四郎左衛門影正でした。彼は唐で５年間陶器の製法を学び、唐の土と釉薬を持ち帰り、尾州に窯を作り作陶を開始しました。当時は日本の技術は稚拙で茶人の目に適う抹茶を入れる器がなかった。そこで唐から渡って来る膏薬などの薬を入れる瓶や、化粧品を入れる瓶を茶人が見立てて茶入れとして使っていました。これを「漢作唐物」と呼び、珍重されました。道元禅師も帰国の際、「大名物久我肩衝（おおめいぶつくがかたつき）」を持ち帰ったといわれています。

帰国した藤四郎の技術はすばらしく、持ち帰った陶土と釉薬で作陶した茶入れは茶人にも認められ、藤四郎唐物と呼ばれ、後の「唐物」となりました。唐物は現在濃茶入の最高峰として珍重されています。室町時代以前は日本の技術は未熟で陶磁器、漆、織物など全て中国製には敵いませんでした。室町幕府は多くの技術者を中国や朝鮮半島から招き技術を伝承させました。ですから藤四郎は日本の技術革新の先駆け的存在だったのです。ちなみに道元禅師の遺骨は藤四郎が焼いた壷に納まっているといわれています。私にとって曹洞宗と茶道が結びつくことを始めて知ることができました。

表千家松本地区茶会　昨年１１月３日（文化の日）に恒例の茶会を開催しました。今回は全久院社中だけではなく、松本市内の表千家の先生社中全員による茶会となりました。会場は全久院、濃茶を全久院社中、薄茶を木沢先生社中、点心を金井先生社中と云うように

全部の先生が担当を順番にして開催しようと云う主旨です。そして表千家の稽古をしている全員が、主催者として茶会に参加できる機会を持てるようにしたいという先生方の意見が実を結んだのです。

　当日は約２４０人の方々が客として、また各席の手伝いとして参加しました。右の写真は茶室に入る前、茶庭の露地を通り、手濯ぎで身を清めるところです。この作法も知らないと茶室に入ることができません。

朝８時に集合して、準備。９時には第一席が始まりました。席を担当すると、まず客の人数を決め、露地に案内して手濯ぎを使い心身を清めていただき、寄り付きで時間を調整してもらい、前の客が退席するのを見計らい席の中を改め、客に入席してもらい、順番に座ってもらい、菓子を出し、点前が始まると客に出す茶の準備をして、全員に茶を出して、退席してもらう。以上１席を３０分で２５人前後の客をさばいて行きます。客の前での優雅さとは裏腹に水屋は激しい動きをしています。この段取りの良さが、大寄せの茶会の最も重要な点です。客を待たせ過ぎては、どんなに点前が上手でもお客さんは満足してくれません。しかしお茶の味が良いかどうかが最重要のポイントです。表千家らしい茶の味は道具、点前、段取り全てが整ってその味が出ます。私も少しずつですが良い味に気付いてきました。右の写真は母も元気で茶席回りをしているところです。８６才になりましたが、毎週４日頑張って茶席で教えています。

法要の会場は是非お寺をお使いください

　このコラムを掲載して数年になります。檀家の皆様にも次第に浸透してきて、寺での法事や葬儀が増えてきました。寺とホールの葬儀費用を比較してみます。たとえば１００人のお参りの人が来る葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、ホールを使う業者ではお参りの人一人当たり２５０００円かかるという計算をしているようです。１００人の会葬者があるとすると、１００人×２５０００円＝**２５０万円**。寺を使えば一人当たり１００００円ほどですので、１００人×１００００円＝**１００万円**。差し引き**１５０万円**の差が出ます。大変な差が出ると思いませんか？

「寺を使うと人手がかかり大変ではないのですか？」と聞かれるのですが、まったくご心配は要りません。ヒラバヤシ式典部「ことの葉」（電話３２－８７２２）か、メモリアルライフ信州（電話４０－７７４５）へ電話するだけです。後の手続きはみな業者がやってくれます。業者も対応の仕方が慣れてきて、心配りが大変嬉しかったとの声も聞いております。

葬儀や法事は宗教的な儀式を通じて、悲しみや心の乱れを整え、亡くなられた方の分まで生きようという力にかえる過程と思います。その場は寺がふさわしいと思います。ピーンと張った空気や静けさ、木や土や畳で作り出される空間で人は癒されると思います。様々な事情で仕方のない場合もありますが、是非経済的にもお寺を使っていただきたいと思います。イスに坐っていただけるよう、駐車場の確保、など以前よりは便利になってきていますし、是非一考ください。いざという時では時間に追われ、後で後悔というようにもなりかねません。自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。

りらの会にご協力ください　寺での法要の手伝いをしていただいているグループ「りらの会」の紹介は以前からしていますので、皆様もご存知のことと思います。檀家の皆様からも手伝いの依頼をいただくようになりました。現在は１０人ほどで、週一回木曜日の掃除、随時依頼される法要の手伝いをしていただいていますが、依頼が多くなり人数が足りなくなっています。檀家の皆様にもぜひ会員として登録いただき、お手伝いいただきたいと思います。お手伝いには、１時間１０００円ほどのお礼を差し上げていますが、そのうち会の運営費を若干納めていただいています。是非多くの方に仲間になっていただき、お寺の手伝いをお願いできたらと思います。「人のお手伝いをさせていただける分、させていただいている自分のほうが心豊かになっているように感じます」と会員の方から言われ本当にうれしく思っています。皆さんのご参加ぜひご参加お願いいたします。

住職の活動

蓮華寺住職辞令　前号で宗務所副所長の役をいただいたことを報告しましたが、早速役割が回ってきました。中山の蓮華寺様の副住職様が住職になる晋山式が、昨年10月25日に執り行われました。式の始めに、宗務庁から発行された住職の辞令を読み上げる役を勤めました。この辞令が宗務庁から発行されたとの宣言をすることで、後の儀式が始まるわけです。この役は宗務所長の役ですが、所長がもう一つの晋山式に出席するため、代理の役を私が引き受けた形です。資格衣を（しかくえ）着ることが義務付けられているので、黄色の衣・黄恩衣（こうおんえ）をつけました。わたしは先代と体型が同じなので、先代の着ていた衣を着ました。仏教では伝衣（でんえ）ということを大切にします。師匠の教えを引き継いだという証拠に、師匠の着ていた衣を頂戴するのです。師匠の着ていた伝衣でのお勤めです。これからも副所長がどんな仕事をするか報告いたします。

ビルマ視察に行ってきました　ＳＶＡ（シャンティー国際ヴォランティア会）がビルマで活動を開始しましたが、どんな協力ができるか視察をしてきました。平成２７年６月２０日～２６日、前の首都ヤンゴンから北へ車で８時間の所にあるピー市の４つの小中学校を視察しました。

ビルマ（ミャンマー連邦共和国）は日本の約 1.8 倍の国土、人口約 5000 万人、１３５を超える多民族国家で、６割がビルマ族、カレン・カチン・ロヒンジャなど国境地帯の少数民族との武力衝突が第二次大戦以後軍政下で続いてきた国です。敬虔な仏教国ですが、少数民族の中にはキリスト教やイスラム教徒がいます。政治状況は、軍事政権下で民主化を求めるアウンサンスーチー氏の軟禁、僧侶を先頭のデモ行進などマスコミに取り上げられるなど、混迷を極めてきました。世界の最貧国とも言われ、一人当たりのＧＤＰは約９万円。しかし２０１１年からの民主化で外資が流入し急激な発展を遂げています。

教育は小学校５年制、中学校３年制、教科は国語、算数、

英語、社会、理科。小学校就学率は８４％、卒業者は６８％。学校に行けない児童は５８万人、成人の識字率９６％でこれこそが近年の発展を支える、良質な労働力の源になっています。しかし公立小学校が不足し、仏教寺院は宗教省の認可を受け、全国で１５００校の寺院小学校を開設し、寺院の出費や村人の寄付でぎりぎりの運営をしています。家庭の事情や貧困や学校が遠いなどの理由で公立学校に行けない子供たちが寺院学校に通ってきます。その他、親が仏教教育を希望する、僧侶が身を削り学校を寺に建て運営している、地域の近くにある、寺が地域に根付いているので信用があり寄付者もいる、制服や文具を支給してくれるなど経済的にも援助があるなどの理由で、親たちも安心して子供たちを寺院学校に通わせています。

　このような状況下でＳＶＡは教育支援、学校建設・図書館建設・教員の研修・書籍や絵本の製作を行っています。今回ＳＶＡの支援を受けた、ピー市内のザヤトゥカ寺院小学校・ヤダナミンズリ孤児院学校・ミャレイヨン寺院学校・スッカヤー寺院学校を視察しました。

　その中でザヤトゥカ寺院小学校を紹介します。生徒数は１０４人（男　４９人、女　５５人）、教師数は５人。学校運営費はお寺と地域住民からの寄付で賄っています。生徒は家族の手伝いをしなければならない、通う距離が遠い、費用が賄えないなどの理由で公立学校に通えない子供たちに対して、住職が完全無償の学校を境内に建てたのが学校の始まりでした。上の写真は３年前私が調査に入った時の写真です。電気もなく老朽化し今にも崩れそうな教室でした。

このように校舎の老朽化、運営費不足、教員不足のため入学者を制限していました。複式学級で１教室に３クラスを１人の先生が担当するなど問題を抱えていた。子供が授業に集中できない、古い校舎で住民も学校に関心を持たなかったが、ＳＶＡの支援で新しい校舎になって子供も通いたいし、親も通わせたいと思うように環境が変わりました。今では公立小学校の子も通いたがるようになったとのことです。

　この地域は貧困地帯で、農家、木こり、日雇い労働で生計をやっと立てている状態です。住職に「公立学校があるのだからあなたが学校を作る必要はないのでは？」と質問すると、住職は逆に怪訝な顔をして「村の皆さんのために当然すべきことでしょ？」と問いた

だされました。数年前マスコミに流された、ビルマの民主化運動を壊滅させるために軍事政権の兵隊がかまえた銃や戦車の前に立ちはだかった僧侶たちの姿が思い出されました。ビルマの僧侶たちの姿に、「ビルマの竪琴の水島上等兵」の姿がダブリました。彼らの揺るぎのない信念触れることができました。

　では私たちに何ができるのでしょう。ＳＶＡでは学校や図書館を建設しています。また絵本を創作して本にして学校に配っています。では相当なお金がかかるでしょ。と聞かれますが、日本中の支援してくれる仲間が集まっていますので、１０００円とか１００００万円とかのお金を合わせて一つの教室を作る資金にして､それを日本中の仲間の資金と組み合わせて学校建設します。ですから、わずかな寄付でも、絵本になったり、学校になったりします。どうぞご協力お願いします。

絵本を東南アジアの国々へ贈ります、お手伝い募集！　ＳＶＡは東南アジアの国々へ絵本を贈っています。日本語の絵本に現地語の翻訳文を糊付けして贈るのですが、その糊付けを日本国内の学校や寺院などのボランティアを募って、作業をしてもらっています。その糊付けが正確にできているかを検査する作業を全久院でしています。「外国語は読めません」なんて言わないでください。私も読めませんが、どなたでも簡単にチェックできます。１月２０日までに２０００冊のチェック作業を終え、横浜港に搬出する予定ですが、ボランティアが足りません。左の表の日程で作業を進めます。昼の部は木曜日の１３時～１６時、夜の部は火曜日の１９時～２１時などで、全久院の稲荷堂で行っています。１月中の作業になりますので、このボランティアに興味のある方、寺まで問い合わせください。

	昼の部 １３時～１６時 （木曜日）	夜の部 １９時～２１時 （火曜日）
１月	７日	１２日
	１４日	
	１５日金	
	１８日月	１９日

ちょっとしたコツを覚えていただければ誰にでもできる作業です。よろしくお願いします。電話するのは何時？**今でしょう！**（古過ぎますか？）

大黒コーナー

ヴェルディ作曲オペラ『仮面舞踏会』公演　大黒の主催する「オペラを楽しむ会」主催の第５回公演が５月７日（土）と８日（日）ダブルキャストによる２公演、まつもと市民・芸術館主ホールにて開催されます。

　このオペラは、壮大なスケール感を持つ、ヴェルディが開拓した「イタリア的グランド・オペラ」の傑作と言われています。計算され尽くした効果的なアリアとアンサンブルの絡み、登場人物の音楽的対比等、非常に凝っていて聞けば聞くほど味わいの出る逸品です。舞台はイギリス支配下のアメリカ、ボストン。この地を統治する総督リッカルドですが、彼の命を狙う者も多くいます。貴族世界の中でうごめく権力争い、反逆、男女関係が「仮面舞踏会」の会場で激しい展開を見ます。忠臣レナートは総督リッカルドに反逆者が迫っていると告げに行くが、そこには自分

の妻アーメリアがいた！！妻の不倫相手である自分の上司に復讐するための暗殺が行われるのが、タイトルになっている「仮面舞踏会」の会場というわけです。暗殺があるからといって陰惨な印象はなく、むしろ人々の葛藤が気高く美しく描かれています。

　ソリストの練習は昨年４月から始まりました。名曲に感動しながら、練習しています。また、指揮者の澤木和彦先生も、発声や、イタリア語の発音など、細かいニュアンスも織り交ぜながら指導してくださいます。今回は、ソリストの出演希望が多く２公演になりました。

合唱も、『体を使った発声で、体は健康に、頭脳はすっきりと明晰に、体はすっきりシェイプアップ！！！？楽しくやりがいのある練習をして、本番に向かいます。』「おもしろそうだな、やってみたいな…」と思われた方合唱団募集も行っています。

　また、チケット代は４０００円（大人）１５００円（大学生）１０００円（小・中・高校生）となっています。ご希望の方は全久院大黒（電話　３６－３２１１）へ申し込みください。

掲示板　（皆様のご参加お待ちしています）

・・・　檀信徒護持会新年総会　・・・

１月１６日（土）４時より全久院で開催します。全久院の催しに参加していただいている方々など、より多くの方に参加していただきたく企画しています。茶道部の皆さまの協力により、**３時４５分より茶室にて薄茶を**差し上げます。お正月の新たまった飾りつけの中、日常とは少し違った雰囲気を味わい、檀家の皆様にも堅苦しくなくお茶に触れていただこう思います。**４時より護持会総会**となり、皆さまから頂戴している護持会費の会計報告など承認いただきます。**４時２０分より本堂にてお参り**、その後座禅会の皆様と**５分間座禅**、**４時４０分より懇親会。**懇親会ではご詠歌の皆さんと観音講の方によるご詠歌の奉詠を数曲お願いします。また南こうせつさん作詞作曲の「まごころに生きる」を皆さんで合唱します。次に観音講や「うたの会」の皆さんで歌っている唱歌を何曲か、みなさんにも歌詞を配り合唱していただこうと思います。一年の初めを皆さま心豊かに過ごし、良い年であるよう祈念したいと思います。総代様のお顔を覚えていただいたり、人柄に触れていただき、全久院のことをいろいろ語り合いたく思います。皆様の参加お待ちしております。参加希望の方は１月１３日（水）までに電話でご連絡ください。

・・・　座禅会　・・・

青山俊董師講演会は師と日程を調整しています。決まりましたらお伝えいたします。

２月２０日（土）・３月１２日（土）・４月１６日（土）・５月１４日（土）・６月１８日（土）・７月９日（土）・９月１７日(土） 以上が上半期の日程です。毎回夕方４時集合４時４０分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、５時４５分頃まで座禅、６時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみることが是非必要と思います。そんな時間に身をおいてみませんか。

・・・　ご詠歌会　・・・

２月１０日（水）・３月９日（水）・４月１４日(木)２時より・５月１２日（木）・６月１６日（木）・７月２１日(木)・９月１５日(木)

午前１０時半より１２時まで、白板　東昌寺住職　飯島恵道師にご指導いただきます。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や県大会、全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。

・・・　観音講　・・・

毎月１７日１０時から１２時半まで行います。１０時から観音様にお勤め、１０時２０分からご詠歌、１０時５０分から大黒の指導で唱歌の合唱、１１時２０分より大黒手作りの野菜中心の食事という日程です。現在１５人ほどの参加者があります。気寄りが良く６０代から８０代の方が元気に集まって来ます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

・・・　歌の会　・・・

１月６日（水）・１月２０日（水）・２月３日（水）・２月２４日（水）・３月２日（水）・３月１６日（水）・４月６日(水)・４月２０日（水）・５月１１日（水）・６月１日（水）・６月１５日（水）・７月６日（水）・７月２０日（水）・８月３日（水）・８月１０日（水）・９月７日(水) 大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。期日は基本的には毎月の第１、第３水曜日です。発声練習の成果で高い声が楽に出せるようになったと好評です。時間は１０時から１２時。会費は１回１０００円、途中１０分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。上記の日程には変更する場合もありますので、お越しの際にはあらかじめ電話等で確認ください。

・・・　ホームページを開設しました　・・・

http://zenkyuin.or.jp/

全久院の催しに参加する若い方から、「全久院報を配っているようだけど、すぐ仏壇に上げられてしまうようで見たことがない。若い人にはコンピューターのほうが身近だからホームページにしてくれないか」との要望がありました。全久院報も全久院を知っていただけるようさまざまなコーナーを作ったので、それをそのままホームページようにすることが出来るとのことで、コンピューター管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんに依頼して開設していただきました。将来は皆様と意見や情報を交換できる場に育てて行きたいと思います。ぜひ一度開いて見てください。